

## 生徒にチャレンジするチャンス

今年度、文部科学省のスーパー・プロフェッショナル・ハイスクール(SPH)に指定された本校は、「社会の第一線で活躍できる専門的職業人の育成」を目的としています。指定期間は3年間で、全学科・コースの生徒を対象に、全国の水産系高校の目標となるような取組にしたいと考えています。これまで、SPH運営指導委員をはじめ多くの方々に御助言、御指導をいただきながら、1年間の取組をまとめることができましたことに、心から感謝申し上げます。生徒諸君はもちろんのこと研究推進委員の先生方も本当にありがとうございました。

さて、本校の取組は「災害」と「地域産業」の2つのキーワードに合計7本の研究を通して、コミュニケーション力をはじめとする10の資質・能力を身に付けることをねらいとしています。

まず、「災害」では地域の災害に備える取組として、①港湾内の航路を確保するための水中ロボット(ROV)開発、②臨時災害放送局開設に向けた取組、③地元の食材を生かした備蓄可能な製品の開発、④防災かまどベンチで調理可能な非常食レシピの開発の4つから構成されています。対象生徒は海洋科機関コース、情報通信科、食品工学科の3学科に渡っており、文字通り本校の生徒が地域の災害にどのように貢献できるかという取組となっています。今年度の取組の中で印象的だったことの一つに枕崎市総合防災訓練への参加があります。この訓練は毎年枕崎市が地域住民に対して行っている訓練の一つですが、次年度この防災訓練に本校の4つの取組も取り入れたものを開催し、その評価や修正等を行い、最終年度となる3年目に再度計画・実施することが提案されています。つまり、学校がただ単に計画と実施をするだけでなく、「地域と密に連携しつつ、地域の必要とすることに新たな要素も加えながら積極的に参加する。」ということです。このことは、地域にとっても本校にとっても非常に重要な要素であり、専門的職業人の育成という視点からも理にかなっていると言えます。そういう意味では、2年目、3年目が楽しみです。

次に、「地域産業」では地域産業を支える取組として、⑤藻場への新たなアプローチに関する取組、⑥チョウザメの種苗生産とキャビアの活用、⑦海技免許講習の充実による後継者育成に関する取組の3つから構成されています。対象生徒は海洋科の栽培工学コースと海洋技術コースとなっています。この中で、藻場については、地域の漁業者と行政、そして本校が協働しながら、ガラモ場の再生に平成17年度から取り組んでいます。この実績を踏まえて、新たにマルチコプターを導入することでその継続性やウニ除去効果の「見える化」を図ろうというものです。また、マルチコプターを災害の取組にも生かすことで、災害状況の把握や記録など新たな効果も期待されているところです。

本校は、次年度、創立110周年を迎えます。全国で活躍している先輩方に、学校の現状や生徒の頑張りを知っていただく良い機会と捉えています。このSPHの取組や効果とともに生徒の成長を観ていただくことは、学校として何よりの恩返しになるのではないかと考えています。

今後、大学や関係機関並びに地域社会とも一層連携しながら本事業の充実を図り、本校で学ぶ生徒に様々な力をつけていくことが重要です。同時に、先般の担い手事業(H21、22年度)でも話題になりましたが、この事業終了後の2021年度以降の取組についても考えながら進めるべきです。本校に入学してきた生徒に「どのようなことを」「どのように学ばせ」「どんな生徒を育てるか」については、常に考えておくべきことです。

最後になりましたが、御指導いただきました運営指導委員会、文部科学省、鹿児島県教育委員会、県水産技術開発センター、枕崎市並びに大学や企業の皆様方にも厚くお礼申し上げますとともに、次年度以降の一層の推進をお約束し、御挨拶とさせていただきます。

平成31年2月吉日  
県立鹿児島水産高等学校  
校長 岸下 純弘